



◆生育状況について

発芽期は、昨年に比べ2日遅い状況。昨年のように開花期が揃うことが心配される。

1. JA管内 ナガノパープル生育

	発芽	開花	満開
平年	4 / 24	6 / 1	6 / 8
令和7年	4 / 20		
令和6年	4 / 17	5 / 25	6 / 2
令和5年	4 / 11	5 / 31	6 / 9

2. JA管内 シャインマスカット生育

	発芽	開花	満開
平年	4 / 26	6 / 7	6 / 11
令和7年	4 / 22		
令和6年	4 / 20	6 / 1	6 / 5
令和5年	4 / 16	6 / 6	6 / 12

◆当面する管理作業について

- 品種間の生育差が少ない為今後の管理作業（特に開花）の間隔が狭くなることが予想される。作業が遅れないよう適期に行う。
- 乾燥が続いているため晴天が20～30mm程度のかん水を行なう（砂を含む土は4日）
※1mmのかん水をするには、水1,000ℓ/10aが必要です。樹冠下に集中して行う。
※かん水後のマルチは水分保持に有効である。霜の心配が無くなってから稲ワラなどのマルチを敷く。
- カスミカメムシの発生が散見される時期となる。ヨモギや近隣の耕作放棄地でも発生するため、地域ぐるみで対策を行う。

◆第4回薬剤散布について

1. 散布時期：展葉5枚期 散布日 月 日

2. 調合量：水100ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
展着剤	10mℓ	—	—
トレノックスフロアブル	100mℓ	黒とう病	60日

3. 散布量：10a当り＝250ℓ以上

4. 留意事項

①トレノックスフロアブルに代えてICボルドー66Dの50倍（水100ℓ当り2kg）を使用してもよい。

◆種あり巨峰について

1. 芽かき作業 《発芽や樹勢に応じて行い、新梢の勢力伸長を揃える》

5月はまだ晩霜の危険な期間である。凍霜害対策は引き続き行い万全を期す。

発芽の悪い園

- ①かん水…定期的にかん水を行い、新梢の発芽・伸長を促す。
- ②芽かき…できるだけ多くの新梢を確保する。葉枚数確保ができたなら新梢管理を行う。

第1回目

- ①展葉初期に不定芽と種枝基部の2芽をかき取る。
- ②樹勢の弱い樹は早目から行う。

第2回目

- ①副芽や極端に強い新梢をかき取り、棚の明るさとバランスを保持する。
- ②負け枝を作りやすい部位（主枝分岐部・側枝種枝の基部）は早めに処理する。
- ③5～6枚期以前に強い新梢を除去することにより、基部に近いところまで新梢を揃えることができる。
- ④新梢の重なりを防ぎ、開花時に花房へ日照を当てる事が重要である。
ただし花振り回避のため、開花前の芽かきは極力弱めとする。（強樹勢）
- ⑤開花中に棚が暗くなっても困るので、樹勢が強く芽数が多く残っている場合は、不要な結果母枝を棚下へ下げて棚の明るさを確保し、実止まり確認後に切除する。

2. 種あり巨峰の新梢の誘引作業《新梢勢力の平均化と樹形を整える》

- ①新梢長が30cm～40cm程度に伸びた頃から実施する。
- ②弱い新梢は誘引せずに立たせておいて棚面を立体的に活用し、葉面積を確保する。
- ③欠けにくい日中に行い、ねじれぬよう水平に誘引する。

3. 種あり巨峰のフラスター液剤散布時期及び方法について

- ①散布時期：平均的新梢の展葉数で8～9枚目が10円玉位の大きさになった頃 散布日 月 日
- ②調合量：水150ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量
アプローチBI	200ml
フラスター液剤	200ml

- ③散布量：10a当り＝150ℓ以上

④散布上の留意事項

- ・生育の状況を観察し適期に散布する。（自根樹は生育が早い、散布時期に注意する。）
- ・フリー樹等、樹勢の強い園はフラスター液剤を500倍（水150ℓ当り300ml）で使用する。
- ・新梢全体（花穂も）に丁寧に散布する。（ツユのある早朝、日中高温時は避ける。）
- ・フラスター液剤の効果を高めるため、花穂によく日光が当たるよう新梢管理を行う。
- ・欧州系等は薬害を生じる恐れがある。他作物も含めかからないように散布する。

4. 種あり巨峰のかん水

- ①かん水は発芽を揃えるため、晴天が5～6日続いたら20～30mm程度実施する。
ただし、開花7～8日前までに切り上げる。

◆種なしぶどうアグレプト液剤散布時期及び方法について

完全に種を抜くため、下記によりアグレプト液剤を品種ごとに適期に必ず散布する。

自園の生育に合わせて散布を行う。

1. 散布時期：満開予定日の14日前～開花7日前まで 年1回使用

※農薬登録の表記とは異なります。開花初期に近づくにつれ、種混入の可能性が高まりますので、登録範囲で早めの散布としています。

各品種の散布目安：展葉8～9枚目（農薬混用不可）

2. 調合量：水1000ℓ当り 散布日 月 日

アグレプト液剤・・・100ml

3. 使用品種：「種なし」で出荷するすべての品種。

4. 散布方法 I 園地全部が「種なし」ブドウで周りに「種あり巨峰」が無い場合は、動力噴霧器を使用して花房全体に掛かるようたっぷり散布を行う。薬液が掛からない部分は種が抜けません。

II 周りに「種あり巨峰」がある場合は、らくらくカップでの花房浸漬でもよい。

5. 散布量：10a当り⇒200ℓ（SSで散布する場合は250ℓ以上）

6. 散布上の留意事項

- ①風の無い日を選んで散布してください。
- ②わずかでも飛散すると、かかったところは種無しになります。周囲の「種あり巨峰」や他品目へは、絶対にかからないよう十分注意する。
- ③溶かすのは当日使用分のみとし作り置きしない。日陰にて保管する。
- ④高温時の使用は避ける。 ⑤品種ごとに適期に散布する。
- ⑥各品種散布時期の範囲内で早目の方が効果は高い。

◆種なしぶどうフラスター液剤の散布について（強樹勢への補完技術）

フラスター液剤の使用回数は年2回ですが、開花前と満開後の併用（2回）使用した試験事例は少ないので注意（基本どちらか1回使用）

1. 種なしぶどうの房型向上（着粒安定）対策技術

1) 散布時期：新梢展開葉7～11枚時（開花始期まで） 散布日 月 日

2) 使用内容

品種	倍率	使用量 水100ℓ当	散布量 水/10a当
シャインマスカット	1,000～1,200倍	100～83 ml	100～150ℓ
ナガノパープル	500～800倍	200～125 ml	150ℓ
以外の品種	500～800倍	200～125 ml	100～150ℓ

3) 留意事項

- ①着粒が良すぎて摘粒が苦勞する場合がある。
- ②散布すると軸の伸長を抑えるので、房こき時の軸長を通常より0.5cm～1.0cm長く残す。
長くても5cm以内にする。
- ③樹勢が弱い場合は散布をしない。なお、不明な点、デラウェアについては果樹技術員にご相談下さい。
- ④特にナガノパープルは着粒が多くなりやすいので遅らせて散布する。
- ⑤赤系品種は着色不良となる場合（着果過多）があるため使用しない。

